

第3章

学習意欲の向上・確かな学力の育成

テーマ7 「学力の向上」

背景(課題)

全国学力・学習状況調査(平成25年度、小・中学校対象)において、以下の課題が明らかになった(図表1)。

【図表1】

全国学力・学習状況調査の項目	本県の調査結果(%)	本県の課題	取組の方向
国語や算数・数学の勉強が好きと回答した児童生徒の割合	国語小:56、中:55 算数・数学 小:65、中:56	児童生徒の教科の学習への関心が低い。	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細かな指導の充実や学習への関心を高めるための授業改善を図る。 ・読んだり聞いたりしたことを表現する活動を充実させ、思考力・表現力・判断力を高める指導を工夫する。
学力調査の結果を教育活動の改善に活用した学校の割合	全国と比較すると、 小学校 -32 中学校 -28	学力調査の結果等の活用が全国に比べ非常に低い。	
教科に関する調査の平均正答率の全国との差	小:国A-1.5、B-0.8 :算A-1.0、B+1.1 中:国A-0.1、B-0.3 :数A+2.6、B+3.0	算数・数学に比べ、国語がやや低い傾向がある。	

また、近年、地域社会・家庭生活の変化により、地域や家庭での教育が難しくなっており、子どもたちの基本的な生活習慣、規範意識、学習意欲・態度などに課題が見られる。このため、学校において教員が子どもたち一人一人に目の行き届いた指導を行うことが、一層求められている。

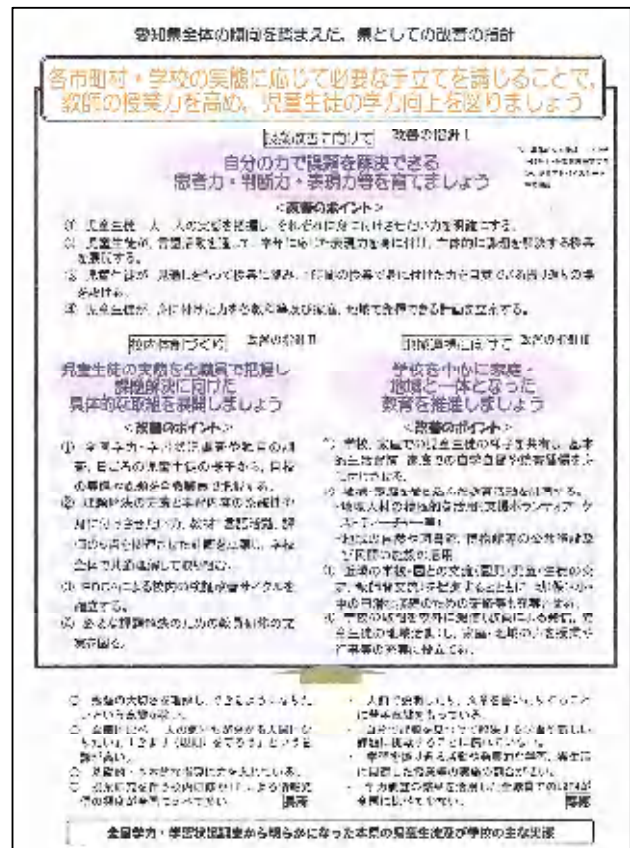
関連する施策の実施状況

・きめ細かな指導の継続実施

引き続き小学校第1学年・第2学年及び中学校第1学年で、少人数学級の実施を継続するとともに、市町村において、県が定める基準によらない弾力的な学級編制を可能とした。あわせて、チームティーチングや学習集団を分割して指導する少人数指導を、継続して実施している。

・学力状況の分析と指導改善法の提示

平成26年9月に、市町村・学校が調査結果を独自に分析するための「結果分析プログラム」(表計算ソフト)とその活用マニュアルを作成・配付した。



【県としての改善の指針～「学力・学習状況プラン」より～】

また、学力向上推進委員会を設置して、「学力・学習状況充実プラン」の改善を図り、授業アイデア、指導のポイント、学習プリントや取組チェックシートなどの具体例として、「授業アドバイスシート」(11月に小学校版、12月に中学校版)を示した。

さらに、平成27年2月には、本県が抱える課題解決のため、愛知県全体の傾向を踏まえた「県としての改善の指針」を示すとともに、全市町村(名古屋市を除く)の学校教育担当指導主事の参加を得て、「結果分析プログラム」を活用した結果分析の方法や課題解決のための方策について研究協議を行い、小・中学校における授業改善を働きかけた。

・学力充実プラン推進事業の実施

学力向上に向けた取組について実践的な調査研究を4市に委託し、その成果を平成27年3月にWebページで配信した。

委託した市	研究内容
豊明市	学力の向上を、授業研究、学習環境、人的環境の3要素の整備・充実から捉え、豊明市の学力充実プランの構築を目指した。
知多市	学習のねらいや自らの考えを書きとめるノート指導を工夫し、考えを深め合う授業改善に取り組んだ。
安城市	学習への意欲・コミュニケーション力・考える力を高めるために、学び合いを中心とした授業づくりに取り組んだ。
蒲郡市	体験的活動や操作活動を授業に取り入れることにより、一人一人が関わり合い、高め合う授業づくりの工夫に取り組んだ。

・教員の指導力向上

事業名	取組内容
教育課程研究集会	「言語活動の充実」を主なテーマに、県内の優れた実践を持ち寄り、よりよい指導の在り方を協議(県内の指導的立場にある小・中学校教員約860名、26分科会開催)
新任教務主任研修 (毎年度)	「確かな学力の向上をめざす教育の実践」について研究協議を行い、現職研修や効果的な少人数指導等の在り方について協議

取組の成果

・少人数学級の成果

少人数学級の対象となった学校へのアンケート調査では、小・中学校ともに「個に応じたきめ細かい学習指導、生活指導ができる」「基礎的・基本的な学力の定着、向上を図ることができる」などの声が聞かれ、一定の成果があったと考えられる。

・個に応じたきめ細かな指導の充実(少人数指導)

本県では、全国学力・学習状況調査結果の活用が低い状況であったが、「学力・学習状況充実プラン」による働きかけや、県内市町村の取組状況を紹介することにより、結果を活用した指導改善が進んだ(図表2)。

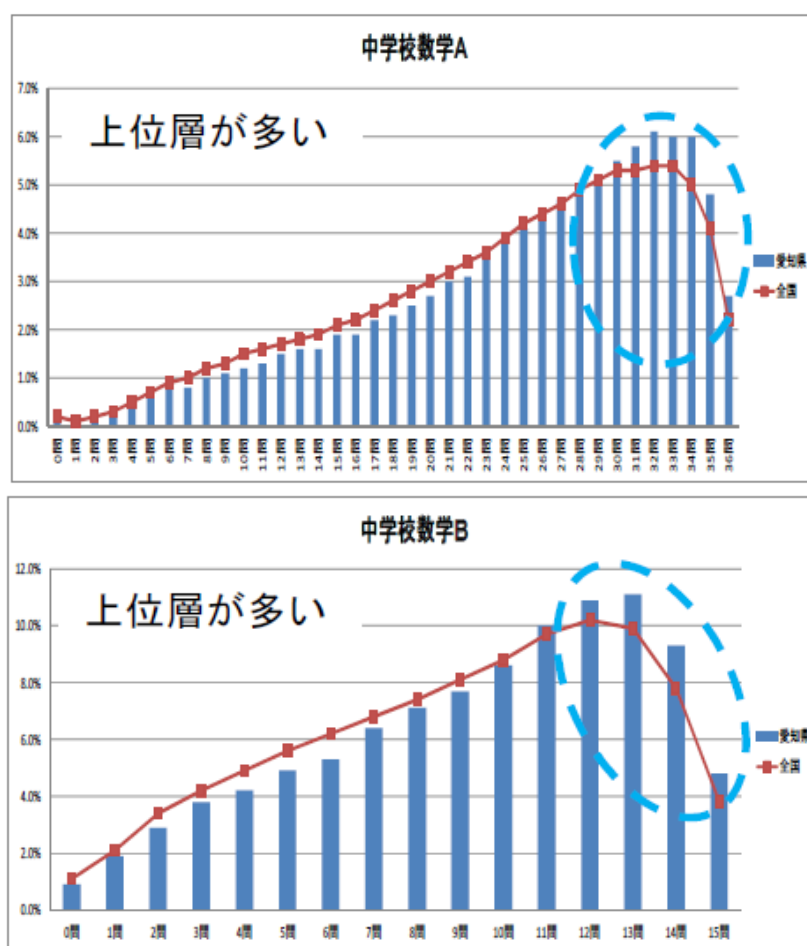
【図表2】

全国学力・学習状況調査の項目	校種	24年度	25年度	26年度
「全国学力・学習状況調査の結果を具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映させた」と回答した学校の割合	小学校	52.0% (国 85.5%)	66.5% (国 92.1%)	92.2% (国 97.1%)
	中学校	38.4% (国 79.8%)	61.0% (国 88.7%)	88.8% (国 95.3%)

また、平成26年度も、本県の小・中学校の算数・数学においては、全国に比べ多くの学校でチーム・ティーチングが実施され(小74.4%[全国62.4%]、中63.4%[全国54.0%])、個に応じたきめ細かな指導が展開されている。

中学校の数学が、全国に比べて下位層が少なく上位層が多い分布となるなどの傾向が見られており(図表3)、小・中学校を通じた算数・数学における個に応じたきめ細かな指導が、中学校数学の好結果の一因となっていると考える。

【図表3】



課題

- 一律に学習集団の人数が少ないだけで学習成果が上がるものではなく、教科の特性や子どもたちの成長段階に適した授業形態を工夫するなど、指導方法を改善することによって学習成果が上がるものと認識しており、少人数学級と少人数指導を合わせて「少人数教育」を総合的に進めていく必要がある。

- ・ 市町村や学校における学力向上の取組の成果が、すぐに調査の得点や学力の向上として現れることは多くない。今後も継続した粘り強い取組が必要である。

今後の方向性

短期的に取り組むこと

- ・ 小学校第1学年・第2学年及び中学校第1学年での少人数学級の実施を継続するとともに、少人数指導の実施に必要な教員を引き続き配置していく。
- ・ 平成27年度も学力向上推進委員会を設置し、全国学力・学習状況調査の結果について独自に分析を行い、学識経験者や一般有識者の意見を参考にして、より有効な改善の方向性を示すとともに、子どもたち一人一人の学力向上に資する取組を展開していく。
- ・ 平成26年度の「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究」「学力充実プラン推進事業」の研究成果を分析し、より効果的な取組がなされるよう、県全体に普及・啓発していく。
- ・ 平成27年3月に義務教育問題研究協議会において作成した「指導者のための若手教員の育成を図る研修の手引き」をWeb配信した。

この手引きは、管理職をはじめ、指導的立場の教員を対象に、新規採用2年目から6年目までの若手教員の力量を向上させる方法と研修事例等を掲載したものである。

若手教員が多くの割合を占める本県の特徴を踏まえ、本手引きを活用した教員の指導力向上により、授業改善を図り、子どもたち一人一人の学力向上につなげていく。



長期的に取り組むこと

- ・ 国の教職員定数改善を踏まえ、少人数学級の実施学年の拡大を含めて、少人数学級と少人数指導を両輪とした少人数教育をどのように推進していくか検討していく。
- ・ 本県の子どもたちが、興味・関心をもって自ら進んで学習することができるよう、市町村や学校を支援していく。その中で、地域や家庭、大学や研究機関等と学校が一体となって学力向上を推進していく仕組みづくりを進めていく。
- ・ 教員の指導力向上のための研修や情報提供に努め、きめ細かな指導によって子どもたちの基礎的・基本的な学力の定着を図っていく。

(関係課室：財務施設課、義務教育課)

早朝学習、業後学習、土曜日の学習講座を実施 【愛知高等学校・中学校】

保護者対象の授業参観、教員相互の授業参観・研究協議、授業アンケートを実施
【愛知工業大学名電高等学校】

「土曜テスト」(全生徒対象) 指名補習(成績下位生徒に対する補習)を実施
【愛知工業大学附属中学校】

7限授業(特進) 補習(特進+希望者) 学習合宿(夏期休暇中、1・2年特進+希望者)を実施
【愛知みずほ大学瑞穂高等学校】

学習遅進生徒に対する国・数・英の講義(1年) 数学グレード別授業(1年)を実施
【桜花学園高等学校】

少人数指導、K I K U K A 講座(2年5クラス8展開、3年5クラス8展開) 選択授業を実施
【菊華高等学校】

特進コース、躍進選抜コースを各学年各1クラス少人数クラス編成で設置。総合コースで国・数・英の習熟度別授業を実施。遅進指導として各学期後に時間割を作成し教科指導を実施 【享栄高等学校】

中学3年生で英語の授業を各クラス二つに分けて、少人数授業を実施 【金城学院中学校・高等学校】

普通科アドバンスコースで少人数クラスによる進学に向けた学習指導、e-learning 教材を使用して英語と数学のレベルアップを目指す 【至学館高等学校】

主要3教科について、生徒面談での意思確認、保護者面談によって作成する個別の指導計画に基づき、本人が目指す進路=目的に合わせたクラス編成「目的別クラス」を編成。土曜授業で受験対策(受験英語、受験数学、小論文)を行い、高校入試に必要な学力を補完。 【星槎名古屋中学校】

特進エクセレントクラスにおいて少人数教育を実施。さらに、理系希望・文系希望で補習等の内容を細分化 【大同大学大同高等学校】

「少人数制・外国人講師による英会話授業」(中学全学年、全員参加、年間週1回) 「少人数制・英語グレード授業」(高校2・3年生)を実施 【東海中学・高等学校】

対象者を絞った中学校内容の復習「ブリッジ学習」を実施。Eラーニングの導入(1・2年生の一部)、少人数教育(1年英語コミュニケーションングリッシュ、3年普通コース選択科目・文理特進コース選択科目)を実施 【東邦高等学校】

毎週の確認テスト、合格点に達しない生徒への課題、遅進者への追試指導、長期休暇での進学講座、授業アンケートを実施 【名古屋中学校・高等学校】

中学校課程の英語(ネイティブングリッシュ)で少人数授業を実施(1年生3単位、2・3年生4単位ずつ)。高等学校課程の英語(ネイティブファカルティ担当)で少人数授業を実施(各学年2科目)。基礎英数講座の開講(授業後週3日)。英語の4技能向上のために中学校課程 Junior GLP・高等学校課程 GLP を開講(授業後週2日)。 【名古屋国際中学校・高等学校】

「スーパーサイエンスラボ」「課題探究」において、約10名に一人の指導教諭を割り当て、少人数で探究活動を実施 【名城大学附属高等学校】

特進クラスにおける習熟度別少人数指導、普通クラスにおける長期休暇中の習熟度別補習、生活文化科における調理実習・被服製作の少人数授業を実施 【愛知啓成高等学校】

ITによる教育活動（e-learning）、少人数探究活動（少人数及びペア授業）を実施 【愛知黎明高等学校】

習熟度別授業（1年生数学、英語表現）を実施し、学期ごとに学力の進展を検証、授業に反映 【栄徳高等学校】

少人数教育（普通科国語・数学・英語、情報会計科・家政科・食物調理科3年生国語）、全校統一の学習コンクール（年6回）を実施 【修文女子高等学校】

コミュニケーション英語、オーラル・コミュニケーション、英語（3年英語コース）の授業1クラスを2クラスに分けて実施、英語（3年普通コース）、英語会話、数学（2・3年）、数学B（2年）、生物（3年）、現代文等（2・3年）を習熟度別・少人数で実施、総合的な学習の時間（2年）を1クラス2人ないし3人の教員で担当 【聖カピタニオ女子高等学校】

チームティーチング（情報：教員2名、外国語：日本人と外国人教師）を実施 【清林館高等学校】

数学・英語（高校全学年）において到達度別授業展開を実施。進路希望に応じた少人数選択科目を15単位履修（高2・3年） 【聖霊高等学校・中学校】

少人数教育（特進、一貫コース）、習熟度別授業（3年英語など）を実施。自習のための学習室を運営（普通科） 【中部大学第一高等学校】

数学、物理、英語で習熟度別クラス編成。理科・地歴の選択科目を少人数でも開講 【春日丘高等学校】

中3英語で習熟度別クラス編成を実施。数学や国語においても少人数で補習や学習合宿を実施 【春日丘中学校】

普通科上位クラスで少人数授業を実施。英語検定・漢字検定・数学検定の受検を奨励 【愛知産業大学三河高等学校】

社会・理科の選択を30名未満で実施（2・3年）。1年英語表現をチーム・ティーチング（日本人教師＋外国人講師）で実施。3年英語・美術・音楽選択を20名未満で実施 【岡崎城西高等学校】

ほとんどの授業を30人以下で実施 【南山国際高等学校・中学校】

英語、数学を軸にグレード授業を実施。受験サプリ（リクルート社）を活用した個別学習を実施。Wi-Fi設置のサテライトルームでの学習を実施 【桜丘高等学校】

数学級制度（中学数学の復習）を1年1学期に実施。1年スポーツ選抜クラス教科「情報」でPC技術の習得のために2クラスを3展開で実施 【豊川高等学校】

大学進学希望者向けの補習を週4回実施。1年は8限、2・3年は8・9限を実施。理科・社会の選択科目は希望者に応じることで少人数教育として実施 【豊橋中央高等学校】

（愛知県私学協会とりまとめ 平成27年6月）

テーマ 8 「魅力ある学校づくり」

背景(課題)

本県では、県立高等学校再編整備実施計画（平成14年度策定）に基づいて、再編統合により活力ある学校づくりを進めるとともに、総合学科（9校）の設置や普通科へのコース制（23校26コース）の導入、専門学科の学科改編、連携型中高一貫教育の導入による山間部の地域に根差した人材の育成など、生徒のニーズに応じた魅力ある学校づくりを進めてきたところである。

しかし、グローバル化や高度情報化の進展、産業構造や就業構造の変化、価値観やライフスタイルの多様化、地域社会の変容など、社会のあり方が急速に変化していく中、将来を担うたくましい人材を育成していくために、一層魅力ある学校づくりが求められている。

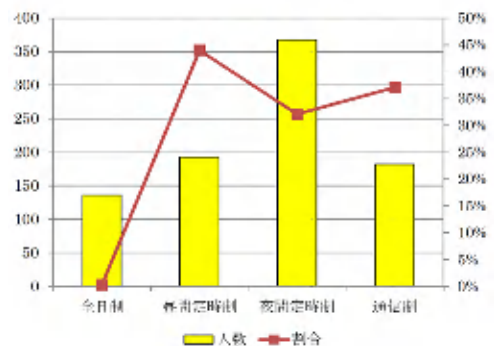
グローバル社会で必要とされる態度や能力の育成と、自己の将来や果たすべき役割を考えさせるキャリア教育の一層の充実に取り組むとともに、特に、全国一のものづくり県である本県では、産業現場で長年にわたって培われた多くの技術・技能を、しっかりと次の世代に引き継ぎ、ものづくり愛知の伝統を守り発展させていくことが求められている。

定時制や通信制の高等学校は中学校時代に不登校であった生徒（図表1）や特別な支援を必要とする生徒、日本語指導を必要とする外国人生徒（図表2）など様々な生徒の学びの場としての役割を果たしている。

特に、毎年多くの志願者がある昼間定時制課程における受入体制の整備や日本語指導を必要とする外国人生徒の学びの場の整備が求められている。

一部地域における生徒数の急減への対応が必要となっている。

[図表1：中学校3年時に30日以上欠席した生徒数・割合（25年度入学生）]



[図表2：県立高等学校における日本語指導が必要な外国人生徒数の推移]

	18年度	20年度	22年度	24年度	26年度
全日制	22人	31人	42人	54人	49人
定時制	38人	38人	42人	103人	141人
合計	60人	69人	84人	157人	190人

関連する施策の実施状況

・県立高等学校教育推進基本計画の策定

上記に挙げた時代の変化や生徒のニーズを踏まえた高等学校づくりを推進するために、県立高等学校将来ビジョン検討会議を立ち上げ、「社会のグローバル

化にどう対応するか」、「世界のものづくりの中心である愛知県でこういった人材を育てていくか」、「少子高齢社会における教育をどのように進めるか」の3つの視点から協議を行い、10年後を見据えた県立高等学校づくりについてのグランドデザインとなる「県立高等学校教育推進基本計画」を平成27年3月に策定した。

・特色ある学校づくり

国際教養科や国際理解コース、国際コミュニケーションコースの設置、スーパーイングリッシュハブスクールの指定などによる国際理解教育の推進や、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定校を含む24校が加盟する「あいち科学技術教育推進協議会」での先進的な理数教育の取組、工業高校の教育課程に地域の企業との連携プログラムを取り入れた「地域ものづくりスキルアップ講座」の実施など、時代の変化や生徒のニーズを踏まえた、特色ある学校づくりを行った。

取組の成果

スーパーイングリッシュハブスクールでは、英語の指導方法の研究や授業研修などをおして、英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることができた。

「あいち科学技術教育推進協議会」で開催した「科学三昧 in あいち」では、英語で研究発表や質疑応答を行う高校もあるなど、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、論理的な思考力・判断力・表現力の育成を図ることができた。

「地域ものづくりスキルアップ講座」では、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能習得や地域産業界を担う人材の育成に取り組むことができた。



課 題

基本計画に掲げた「1 グローバル社会で活躍できる人材の育成」、「2 キャリア教育と職業教育の一層の充実」、「3 魅力ある高等学校教育の基盤づくり」、「4 生徒のニーズを踏まえた様々なタイプの高等学校の配置」、「5 生徒が減少する地域における対応」の5つの柱に基づく取組を着実に推進していく必要がある。

今後の方向性

基本計画を推進するために、実施計画を策定する。

実施計画の区分	計 画 期 間
第1期実施計画	平成27年度から平成31年度まで
第2期実施計画	平成32年度から平成36年度まで

短期的に取り組むこと

- ・第1期実施計画を、平成27年末までに策定する。

長期的に取り組むこと

- ・国の動向や学習指導要領の改善の方向、さらには、年度ごとの進捗状況を踏

《県立高等学校教育推進基本計画の概要》

1 グローバル社会で活躍できる人材の育成

(1) 国際理解教育の推進

- 自国及び他国の歴史や文化への理解を深め、尊重する態度を育成します。グローバル社会で求められる強い精神力と異文化に立脚する他者への共感力を育成します。
- 生徒が海外の文化に直接触れる場を設定します。英語などによるコミュニケーション能力を育成します。

- ① 多文化共生教育の充実
- ② 外国人生徒の学びの場の整備
- ③ 海外の文化や言語を学べるコースの設置
- ④ 海外交流の促進
- ⑤ 英語教育の一層の充実
- ⑥ グローバル人材の育成を推進する組織づくり
- ⑦ ESD（持続可能な開発のための教育）の推進
- ⑧ 海外の学校との教員の相互派遣
- ⑨ 国際大会ボランティア養成を通じたグローバル人材の育成
- ⑩ 国際バカロレア教育の推進

(2) 科学技術人材の育成とICT教育の推進

- 世界を牽引する科学技術人材を育成することが期待されています。情報や情報手段を主体的に活用する能力を育成します。
- アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の論理的な思考力・判断力・表現力を育成します。

- ① 科学技術教育に係る連携の充実
- ② 理科教育環境の充実
- ③ 情報活用能力の育成
- ④ アクティブ・ラーニングの推進

(3) 芸術、スポーツなどの分野における個性の伸長

- 芸術、スポーツなどの分野の学びを更に充実させるとともに、優れた個性や能力の一層の伸長を図ります。

- 芸術、スポーツを学べる学校等の設置

2 キャリア教育と職業教育の一層の充実

(1) キャリア教育の一層の充実

- 体系的・系統的に学習できる教育課程を編成します。教育活動全体を通じてキャリア教育を推進します。
- 生徒が実社会を自分自身の目で見て、他者の生き方に触れる機会を増やします。道徳性・社会性の向上を図るために、インターンシップやボランティア活動などの体験的な活動を推進します。

- ① キャリア教育に関する科目の開設
- ② インターンシップ等の拡充
- ③ インターンシップやボランティア活動の単位認定
- ④ キャリア教育コーディネーターの配置

(2) ものづくり愛知を支える職業教育の一層の充実

- 産業界や国の関係機関、知事部局等との連携を密にし、専門的な知識や技術をもつスペシャリストや、地域産業の担い手を育成します。
- 産業構造や社会のニーズの変化を踏まえ、職業学科の改編や教育内容を見直します。

- ① ニーズを踏まえた学科改編等
- ② 産業の複合化への対応
- ③ 地域産業との連携の強化
- ④ 専門機関との人事交流等
- ⑤ 実習用施設・設備の充実
- ⑥ ものづくりサポーターバンク制度の導入
- ⑦ 職業学科の魅力の発信

3

魅力ある高等学校教育の基盤づくり

(1) 教員の指導力向上と様々な学びの機会の充実

- ミドルリーダーを育成していくための研修を充実します。各学校におけるOJTを一層充実します。民間人材の積極的な活用を推進します。
- 高大連携等の外部機関と連携した魅力ある教育活動を、より幅広くかつ円滑に行える仕組みを構築します。

① ミドルリーダー育成と民間人材活用

- ② 教員の確保と支援体制づくり
- ③ OJTの一層の充実
- ④ 総合教育センターの機能の充実
- ⑤ 研究成果の発信と活用
- ⑥ 中高の教員間交流の推進
- ⑦ 専門機関との人事交流等
- ⑧ 海外の学校との教員の相互派遣
- ⑨ 高大連携等の一層の推進
- ⑩ 開かれた学校づくりの推進

(2) ICT環境及び安全な施設・設備の充実

- ICT環境の整備に努めるなど必要な施設・設備の整備を進めていきます。
- 校舎等の耐震改修完了後、老朽化対策について、早期に将来計画を策定していきます。

① ICT機器などの教育環境の整備 ② 老朽化対策の計画づくり

4

生徒のニーズを踏まえた様々なタイプの高等学校の配置

(1) 総合学科の新たな設置と普通科の活性化

- 総合学科は、県全体のバランスに配慮して更なる設置を進めます。
- 普通科の教育課程の弾力化を進めます。時代の変化や生徒のニーズを踏まえ、普通科コースの改廃や新設を検討します。

- ① 総合学科の新たな設置
- ② 普通科の教育課程の弾力化
- ③ 普通科コースの改廃・新設
- ④ 理科教育環境の充実
- ⑤ アクティブ・ラーニングの推進
- ⑥ キャリア教育に関する科目の開設
- ⑦ インターンシップ等の拡充

(2) 多様な生徒のニーズに応える学校づくり

- 不登校生徒など、特別な事情をもつ生徒が自分のペースで学習できる学校づくりを進めます。日本語指導を必要とする外国人生徒の学びを支援します。
- 「愛知県特別支援教育推進計画」に基づき、特別な支援を必要とする生徒に対し、適切な支援・指導を行います。
- 本県における今後の中高一貫教育のあり方について検討します。

- ① 昼間定時制や全日制の単位制高校の設置
- ② 定時制・通信制教育の充実
- ③ 多様な生徒に対する人的支援の充実
- ④ 外国人生徒の学びの場の整備
- ⑤ 高等学校における特別支援教育の充実
- ⑥ 中高一貫教育の推進

5

生徒が減少する地域における対応

- 生徒が減少する地域については、それぞれの地域の実情を踏まえて、将来的な学校配置の構想を検討します。
- 東三河地区については、魅力のある学校づくりを一層進めます。山間地域等に根ざした教育活動を支援します。各学校の学級数の縮減を図りつつ、地域の実情を踏まえて、将来的な学校配置を検討します。

- ① 将来的な学校配置の検討
- ② 東三河地区における対応
- ③ 中高一貫教育の推進

生徒や保護者、地域住民を対象にした講座等の開催（土曜日、特別講座・早朝参禅会・映画鑑賞・陶芸教室等）
【愛知中学校・高等学校】

先端科学技術入門、サイエンスラボ、Meiden Labo in AIT、愛工大説明会、愛工大による課題研究特別指導（科学技術科・情報化学科）、モチベーション講座、文系特別講座、理系特別講座、理工系啓蒙プログラム、愛工大接続セミナー（普通科）、愛工大専攻説明会、特別講演会（全体）等の高大連携を意識した授業・行事を展開
【愛知工業大学名電高等学校】

愛知工業大学の教授による理科実験教室（サイエンスラボ）を各クラス年1回実施
【愛知工業大学附属中学校】

高大連携プログラム（愛知みずほ大学、同短期大学部による夏季集中授業）により大学・短大の講義を体験、単位を認定。強化部活動（卓球・水泳・スケート部）の充実
【愛知みずほ大学瑞穂高等学校】

付属の大学・短大との連携（総合学習（1年）での講演、英語（3年）の出前授業）
【桜花学園高等学校】

毎朝10分間の全校一斉読書実施。名古屋産業大学・名古屋経営短期大学の教員による授業実施
【菊華高等学校】

総合コースでは、1年次は統一カリキュラムを履修し2年次より3科（普通科・商業科・機械科）に分かれ、専門科目を履修。商業科でのWスクール実施、メディアコースでの提携専門学校での授業実施、機械科の実習授業の一部を提携専門学校で実施、土曜セミナー（年間5回、土曜日を利用し、生徒、教員、地域一般を対象とした様々な講座を開講）、タウンサークル（学期に1回、地域の方々を招いて学校の活動状況の報告や地域の要望等の意見交換会を行う）の開催
【享栄高等学校】

出前授業、行事における大学との連携、高大接続連携授業（高3の大学単位の先取り）、授業開発における大学からの助言
【金城学院中学校・高等学校】

県内6大学と連携し、普通科・商業科からの大学進学を積極的にサポート。大学見学会、提携大学からの出張授業、学校行事での大学との交流
【啓明学館高等学校】

3つの課程、6つのコースで多様な選択肢のある学校、生徒を第一に考えた教育づくり
【至学館高等学校】

英語・数学・国語を習熟度別にクラス編成。ゼミ形式の土曜授業により、「わかる喜び」と「できる喜び」を体感、自尊感情を高める取組。共同学習により集団の中で協力しあう姿勢を育成。星槎の3つの約束「人を排除しない」「人を認める」「仲間をつくる」を順守。段階的指導の明確化、家庭訪問等、アウトリーチサービスの拡充、ICT等を活用した学習活動への取り組み状況の把握、学習成果の評価手法の明確化等により登校が困難な状態にある生徒への対応を充実
【星槎名古屋中学校】

高大連携教育を実施
【大同大学大同高等学校】

土曜公開講座「サタデープログラム」（中高生・教員・市民対象、年2回、生徒のべ2,000人参加）、研究&仕事紹介講座（高校1年生対象、年1回、全員参加）、教育懇談会（中学・高校教員対象、年2回）
【東海中学・高等学校】

普通科「人間健康コース」の新設、愛知大学との教育提携（年間7回、模擬授業実施）、愛知東邦大学での「大学模擬授業」実施（1・2年生対象、年1回）、東北工科大学との連携（講演会）、成安造形大学との連携授業（美術科1・2年生）
【東邦高等学校】

人工芝グラウンドでの体育授業・体育祭・球技大会。高校での1年間の留学制度
【名古屋中学校・高等学校】

名古屋商科大学のネイティブの大学教員による英語の授業の実施（高校1年）、テレビ会議システムを使用した、名古屋商科大学教員による授業（国際機構）の実施（高校3年生）
【名古屋国際中学校・高等学校】

南山大学土曜セミナー（90分の講座×2、年1回、女子部高校1年生）、南山大学人類学博物館へ行こう（2時間、年1回、女子部中学1年生）、東日本大震災被災者支援チャリティーコンサート（教員生徒有志による協働企画、年1回、女子部） 【南山高等学校・中学校】

学校設定科目「スーパーサイエンス（普通科2年理系、年5回）での、名城大学理工学部、農学部、薬学部、総合学術研究所の教授による、先端研究についての講義の実施。大学、JAXA、核融合研究所などからの講師による、最先端の学術的講義の実施によるキャリア形成支援 【名城大学附属高等学校】

生活文化科における、地元の和菓子職人、イタリアンシェフなどによる講習会の実施。地元のお年寄りを招待する敬老会の実施。専門教科の知識、技術取得のための商業、生活文化科における愛知文教短期大学との連携。愛知教育大学、教職実践演習履修者の授業参観受入 【愛知啓成高等学校】

学校づくりフォーラムの開催（テーマ：学校改革、参加者：生徒、保護者、教員、地域代表、学識経験者。地域に根付く、地域と共に歩む学校づくりについて協議。年4、5回開催）。大学との教育連携協定締結、授業に大学教授を招聘。オープン講座の実施（年2回、市民及び本校生徒、保護者、教職員対象） 【愛知黎明高等学校】

能力、意欲のある生徒を育成するため、大学体験プログラムや講義体験プログラムの実践等の連携について、平成26年度末に名古屋学院大学と調印 【栄徳高等学校】

附属幼稚園で保育実習を実施（家政科3年生、年2回）。地域貢献の一環として、「杜の宮市」、「一宮モーニング博覧会」に参加、138ひつじプロジェクトの一環として「ひつじのたれ」を考案。地元企業との共同企画として「ベジタブルあられシリーズ」を商品化（食物調理科生徒） 【修文女子高等学校】

愛知淑徳大学との高大連携の実施 【聖カピタニオ女子高等学校】

北海道情報大学との連携授業の実施。愛知工業大学との教育交流の実施 【清林館高等学校】

南山大学生による中学生向けチューター学習の実施 【聖霊高等学校・中学校】

中部大学との連携による出前授業や出前実験、入学前教育（3年2学期以降）の実施。福祉実践教室の開催（年1回） 【中部大学第一高等学校】

E S D、S G Hの課題探求学習活動を通じた大学教員との連携。今後、高大連携クラスによる単位を互換するカリキュラムの開発 【春日丘高等学校】

文化祭、E S D、S G Hの学習活動を通じた大学教員との連携 【春日丘中学校】

姉妹校である愛知産業大学との高大連携授業として、「キャラクターアニメーション作成」、「エコバックの制作」、「映像制作」などを実施（年間16回×2時間） 【愛知産業大学三河高等学校】

学校設定科目で南山大学総合政策学部の授業を受講 【南山国際高等学校・中学校】

英語教育での愛知大学との連携 【桜丘高等学校】

大学の授業の模擬体験、土曜講座への大学からの講師派遣、芸術鑑賞、豊川海軍工廠学徒動員戦没者追悼式、大学見学、保護者向け公開授業の実施 【豊川高等学校】

愛知東邦大学、豊橋創造大学、静岡理工科大学との高大連携事業の実施。就職希望者向け出張講義、大学進学希望者向け出張講義、大学見学会、教員向け面接講習会等。「7つの習慣J」プログラムの受講 【豊橋中央高等学校】

（愛知県私学協会とりまとめ 平成27年6月）

テーマ9 「特別支援教育の充実」

背景(課題)

特別支援学校の規模の過大化による教室不足や長時間通学の問題、子どもの障害の重度・重複化や多様化への対応、小中学校や高等学校等に在籍する発達障害の可能性のある子どもへの適切な支援・指導、将来自立した社会生活を営むための就労支援の拡充、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム(可能な限り障害のある幼児児童生徒が障害のない幼児児童生徒とともに教育が受けられるシステム)の構築など、特別支援教育が果たす役割が一層重要となっている。

・特別支援学校の過大化による教室不足

特に、知的障害特別支援学校において、児童生徒数がこの10年で約1.5倍に増加。教室が不足し、特別教室を普通教室に転用するなどして授業を行っている(図表1)。

[図表1:知的障害特別支援学校の不足教室数(平成26年度)]

学校名	普通教室数	学級数	不足教室数
みあい	35	46	11
一宮東	52	60	8
半田	59	81	22
春日台	56	79	23
豊川	55	89	34
安城	63	74	11
いなざわ	46	48	2
佐織	43	45	2
三好	61	69	8

・スクールバスによる長時間通学

肢体不自由特別支援学校のスクールバスの平均運行時間は1時間を大きく超えており、体調面への大きな負担となっている(図表2)。

[図表2:肢体不自由特別支援学校スクールバス利用状況(平成26年5月1日現在)]

区分	名古屋	港	豊橋	岡崎	一宮	ひいらぎ	小牧
バス利用者数(人)	36	86	65	80	83	71	63
通学者数に占める割合(%)	(23.4)	(38.9)	(43.3)	(57.6)	(53.5)	(49.3)	(52.9)
バス台数(台)	3	4	3	4	4	3	4
平均運行時間:片道(分)	78.3	81.3	88.3	78.8	85.0	90.0	82.5
通学60分以上児童生徒数(人)	10	37	15	32	28	43	14
バス利用者数に占める割合(%)	(27.8)	(43.0)	(23.1)	(40.0)	(33.7)	(60.6)	(22.2)

・小・中学校、高等学校における特別な支援を必要とする児童生徒の増加

小・中学校における特別支援学級や通級による指導の対象となる児童生徒数は、年々増加している(図表3)。

また、文部科学省の調査では、発達障害の可能性のある児童生徒が、小・中学校の通常の学級に6.5%、高等学校に2.2%在籍しているとされている。

[図表3:小・中学校の特別支援学級、通級指導の対象者数]

区分	22年度	24年度	26年度
特別支援学級在籍	7,563	8,261	9,063
通級指導対象	2,083	2,854	3,713

関連する施策の実施状況

平成26年3月に策定した「愛知県特別支援教育推進計画(愛知・つながりプラン)」に沿って様々な施策を展開した。主な施策は次のとおりである。

・特別支援学校の整備

教室不足に対応するため、県単独、又は市町村と連携して、特別支援学校の整備を進めている。

【平成26年4月開校・開設】

県立いなざわ特別支援学校（知的障害）

県立豊橋特別支援学校山嶺教室

瀬戸市立瀬戸特別支援学校光陵校舎（肢体不自由）

【平成27年4月開校】

豊橋市立くすのき特別支援学校（知的障害）

名古屋市立南養護学校分校（知的障害）

【今後の予定】

県立知多地区新設特別支援学校（知的障害）（平成30年度）

県立尾張北東地区新設特別支援学校（知的障害）（平成31年度）



[いなざわ特別支援学校]

・長時間通学の解消

肢体不自由特別支援学校3校（港、岡崎、ひいらぎ）に、各1台ずつリフト付きスクールバスを増車し、長時間通学の緩和を図った。

平成26年4月に、県立田口高等学校内に県立豊橋特別支援学校山嶺教室を設置し、東三河山間地域から通学する生徒の長時間通学の解消を図った。

・一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の推進

地域の教育資源（幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など）を組み合わせることにより、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を実現する取組（肢体不自由児スクールクラスターモデル事業）を行った。

・幼稚園、小・中学校、高等学校における支援・指導体制づくり

小・中学校に障害種別の特別支援学級を設置して、一人ひとりの実態に応じた特別な教育課程を編成した（図表4）。通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に対する指導を行うための、通級による指導教員を配置した。

[図表4：特別支援学級 障害種別設置学級数
（平成26年5月1日現在）]

また、平成25年度から、小学校で通常の学級に在籍する発達障害等の児童への支援・指導方法について研究を進めている。

さらに、管理職や特別支援教育コーディネーター等を対象とした研修の実施や、関係機関のネットワークづくりのための特別支援教育連携協議会を開催した。

障害種別	小学校	中学校	合計
知的障害	840	390	1,230
肢体不自由	51	16	67
病弱・身体虚弱	29	10	39
弱視	7	1	8
難聴	11	5	16
言語障害	5	1	6
自閉症・情緒障害	835	359	1,194
合計	1,778	782	2,560

取組の成果

・教室不足の緩和

いなざわ特別支援学校の開校により、近隣の特別支援学校における教室不足が緩和された（一宮東特別支援学校31 8室、佐織特別支援学校19 2室）。

また、平成27年4月の豊橋市立くすのき特別支援学校の開校により、豊川特別支援学校の教室不足が大幅に緩和された（34 4室）。

さらに、半田特別支援学校及び春日台特別支援学校の教室不足を緩和するために、平成27年度には学校の新設に向け、知多地区では実施設計、尾張北東地区では基本設計を行うこととなった。

・長時間通学の解消

スクールバスの増車により、長時間通学の緩和が図られた（【例】ひいらぎ特別支援学校・通学時間60分以上の児童生徒の割合：60% 34%）。

豊橋特別支援学校山嶺教室の開設により、長時間通学の解消が図られた。さらに、住み慣れた地域での自立と社会参加、高等学校と特別支援学校との生徒相互の自然な交流などが期待されている。



[豊橋特別支援学校山嶺教室開設式]

・幼稚園、小中学校、高等学校の特別支援教育に関する校内支援体制の整備

特別支援教育コーディネーターや担当教員等を対象とした研修の実施、個別の教育支援計画の作成等により、校内支援体制の整備が進んだ。

課題

・知的障害特別支援学校の教室不足は依然として喫緊の課題

知的障害特別支援学校の児童生徒数は今後も高止まりとなることが見込まれるため、教室不足は、依然として課題である。

特に、解消策に着手していない安城特別支援学校及び三好特別支援学校について具体策を検討するとともに、教室不足の解消を図るため、県内にバランスよく複数の特別支援学校を配置することについても検討していく必要がある。

・肢体不自由特別支援学校の長時間通学の解消

スクールバスのさらなる増車（更新を含む）を検討する必要がある。

・就職率の向上と職域の拡大

特別支援学校高等部の生徒の就職率は40%の手前で横ばいの状況が続いており、就職先も製造業に偏りが見られることから、生徒が希望する進路を実現できるよう、就職先の開拓や職域の拡大などに努める必要がある。

・幼稚園・小・中学校・高等学校の教育支援体制、人的配置、施設整備の充実

障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した教育支援が強く求められていることから、特別支援教育コーディネーターや担当教員の資質向上、個別の教育支援計画の活用等をより一層図っていく必要がある。

特に個別の教育支援計画の作成率は、県の独自調査で、通常学級の児童生徒で44.4%、通級指導の児童生徒で68.8%と低水準にとどまっている現状が明らかとなっており、保護者の理解を得つつ、作成率の向上を図る必要がある。

また、小・中学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒数が増加していることから、特別支援学級の設置、通級による指導担当教員・特別支援教育支援員等の人的配置の充実、施設等の環境整備が喫緊の課題である。

今後の方向性

短期的に取り組むこと

- ・ 半田特別支援学校及び春日台特別支援学校の教室不足を緩和するため、新設校の整備を進め、平成30年度（知多地区）、平成31年度（尾張北東地区）の開校を目指す。
- ・ 緊急性の高い学校から順次スクールバスを増車する。（平成27年度3台予定）
- ・ 児童の実態に応じた特別支援学級を設置できるように、平成27年度から、小学校の特別支援学級の新設基準を改善する。（1人から新設可能）
- ・ 就職率の向上や職域の拡大等を図るため、特別支援学校高等部生徒の就労支援を専門に行う「就労アドバイザー」を、拠点となる高等特別支援学校2校に1名ずつ配置し、関係機関との連携の一層の強化を図る。

また、平成28年度から、知的障害特別支援学校高等部に職業コースを設置する。併せて、各校で職業教育の見直し、充実強化を図る。

- ・ 特別支援教育コーディネーターや担当教員等を対象とした研修の充実、平成27年3月発行の、発達障害等のある児童生徒に対する指導支援方法の指導事例集の活用などにより、教員の指導力向上を図る。
- ・ 各学校の個別の教育支援計画等の作成・引継ぎ率について、引き続き実態把握を行うとともに、平成27年3月作成の教育支援リーフレットを活用して、向上を図る。

長期的に取り組むこと

- ・ 「愛知県特別支援教育推進計画」について進行を管理し、必要に応じて施策の見直しを検討する。
- ・ 特別支援学校の教室不足解消の方策について、引き続き検討する。
- ・ 一般教員向けの基礎的なものから、特別支援教育コーディネーターのさらなるスキルアップを図る専門的なものまで研修を幅広く行い、平成30年度までに特別支援教育に関する研修への教員の参加率100%を目指す。
- ・ 平成30年度までに個別の教育支援計画等の作成率100%を目指す。
- ・ 障害のある幼児児童生徒が十分な支援を受けるための合理的配慮に向けた人的配置や環境整備の充実について検討していく。（関係課室：特別支援教育課）



[教育支援リーフレット]

テーマ 10 「持続可能な社会の担い手の育成」

背景(課題)

平成14(2002)年に、わが国の提案により、平成17(2005)年から26(2014)年までの10年間は「国連ESD(持続可能な開発のための教育)の10年」と定められ、国連教育科学文化機関(ユネスコ)がその推進機関に指名された。

これを受けてわが国では、文部科学省内に設置された「日本ユネスコ国内委員会」や関係省庁が協力して、ESDを推進している。

国連ESDの10年の最終年となる平成26年11月には、「ESDに関するユネスコ世界会議」が本県・名古屋市で開催された。

学校教育においても、学習指導要領にESDの理念が盛り込まれており、社会、理科をはじめとする各教科等が目指す教育活動には、ESDの理念に結びつくものが多く含まれている。



[ESDの概念図]

出典:「ユネスコスクールと持続発展教育」(日本ユネスコ国内委員会)

関連する施策の実施状況

・ESDの推進拠点となるユネスコスクールの加盟促進

ESDをさらに発展・充実させていくため、ESDの推進拠点であるユネスコスクールの加盟校を、平成23年度時点の2校から、平成26年11月の世界会議までに50校以上に増加させることを目標に、説明会の開催や活動事例集による普及・啓発などの加盟促進を図った。

また、加盟後の積極的な活動を支援するために、加盟校と協働してESDを実践する地域団体に対して「ユネスコスクール活動助成金」を交付した。

・教員に対するESD研修の実施

平成25年度から27年度の3年間、「教員研修の手引き」にESD推進の特集を掲載したり、環境教育、キャリア教育、国際理解教育、健康教育、人権教育の項目でもESDに関する取組について記述したりして、ESDの視点に立った学習指導を周知した。

総合教育センターの研修講座に、ESD推進講座「ESDを学校教育に取り入れよう! 1・2」を開設した。

初任者研修においてもESDの視点を取り入れた環境教育や人権教育などの研修を行った。

・「ESDあいち・なごや子ども会議」の開催

平成26年11月、本県内で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」に併せて、県内の子どもたちが中心となって持続可能な社会づくりについて話し合う「ESDあいち・なごや子ども会議」が、ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会により開催された。

《ESDあいち・なごや子ども会議の概要》

参加者 県内の国・公・私立小中学校、特別支援学校65校の小学5年生から中学3年生
121名

内容 発足式(7月5日)
現地学習(7月31日～8月22日)
共通テーマ1日と5つのコース(気候変動・エネルギー、防災、生物多様性(海・下流域)、文化、生物多様性(山、上・中流域))に分かれて各1日
グループ討議(9月7日～10月26日、4回)
学校の取組発表(10月26日)
全体会議(11月10日)
メッセージ発表(11月12日)



[現地学習(生物多様性(海・下流域))]



[メッセージ発表]

取組の成果

・ユネスコスクールの加盟150校以上の達成

ユネスコスクール加盟促進に向けた取組や、ESD活動の実績がある地域・学校への働きかけ等により、平成26年度末におけるユネスコスクール加盟申請校は、156校となり、当初の目標である50校を大きく上回る形で達成した。(図表1)。

幼稚園	小学校	中学校	中高一貫校	特別支援学校	高等学校	大学	合計
3	93	40	2	2	15	1	156

・学校におけるESDの視点を取り入れた学習

小・中学校では、総合的な学習の時間や学校行事などを活用して、地域の自然や人、歴史、産業などを題材に、ESDの視点を取り入れた学習が進められている。

また、高等学校においても特色ある取組を行っている。

・世界会議でのメッセージ発表

「ESDあいち・なごや子ども会議」で話し合ったことや参加者の思いをメッセージとして、子どもたち自身の手でとりまとめ、世界会議の閉会全体会で発信することができた。

また、子ども会議に参加した児童生徒一人ひとりが、子ども会議の全体会議で「わたしのESD宣言」を発表し、その宣言からは持続可能な社会づくりに向けて今後とも取り組んでいく強い決意がうかがわれ、「ESDあいち・なごや子ども会議」をとおして、持続可能な社会づくりを担う人材の育成を行うことができた。

ESDあいち・なごや子ども会議からのメッセージ

私たちが考える「持続可能な社会」は、「未来を考え、お互いを思いやり、人間だけでなくすべての生き物が共に、幸せに生きる社会」です。差別も不安もなく、平和で安全に、楽しく生活できる社会にしたいです。

しかし、今、私たちが生きている社会は、
資源やエネルギーを無駄づかいし、自然環境を破壊しています。
世界のどこかで戦争がおこっています。
地域の伝統文化を伝えることが難しくなっています。
防災対策をしている人が限られています。
たくさん問題があって、「持続可能な社会」とは言えません。
そして、こういった問題は、すべて、人とつながっていることがわかりました。
「持続可能な社会」づくりを難しくしているのは、
・とどまることを知らない人間の欲、自分勝手さ、わがままな気持ち
・人々の意識や関心が低く、知識が少ないこと
なのです。

いろいろな問題の原因をつくっているのは人間ですが、それを解決していくのも人間です。
「持続可能な社会」をつくるために、私たちは、次のことを実行します。
・まだ知らないことがあるので、もっと現状を学びます。調べ、考え、参加します。
・たくさんの人に知ってもらい必要があるので、ESDを学校や地域の人に伝えます。
・身近に出来ることは提案し、行動し、実行します。
・命を大切に、人と人とのつながりを深め、交流します。

ここで、子ども会議から、大人みなさんに、次のことを提案します。
・戦争をしないでください。武力で解決しないでください。
・世界の人々が協力して、どの国の人も教育が受けられる環境をつくってください。
・子ども会議のような、学び、考え、話せる場をもっとつくってください。大人もESDに興味を持って参加してください。
・知識も経験もある大人が、現状や未来に伝えたいことをもっと私たちに教えてください。
・多くの人にESDを広めてください。ESDの考え方を広めて、今ある法律を変えてください。
・地域の人たちともっと交流してください。
・未来に目を向けて考えてください。当たり前のことを大切にしてほしいのです。子どもができて大人にできないわけがないと思います。

子ども会議の私たちが考える「ESD」とは、「未来を考えて、行動すること」です。みんながESDの主人公となって、今、これから、未来に向かって、ESDに取り組んでいきます。私たちは本気です。大人みなさんも、本気になってESDに取り組んでください。ESDは、この世界の未来にとって一番大切なものなのでから。

平成26年11月10日

ESDあいち・なごや子ども会議 参加者一同

《 E S D あいち・なごや子ども会議参加者の「わたしの E S D 宣言」(抜粋) 》

- ・私は E S D 子ども会議を通し、地球はこわれかけていることを知りました。これからもみんなが地球で暮らすために、私はこの地球に住む一人として、地球温暖化のことをもっと知り、みんなに広めます。
- ・将来、教師になって生徒に E S D を伝えるために今、知識を増やします。
- ・自然と共存するためには、いろんな生物の生態を知り、住み処や環境を整える必要があることが分かりました。だから、ぼくも、積極的に保全活動に参加したり、地域のホテルを守るために、学区の人や友達と話し合っていきたいです。
- ・私は地域の人を大切にします。私は子ども会議で地域の人がいなければ、私たちは安全に暮らしていけないことを学びました。だから、地域の活動に参加して、たくさんの地域の人と仲良くなりたいたいです。

課 題

・ユネスコスクール加盟校の活動への支援、E S D の普及・啓発

持続可能な社会の担い手の育成に向けて、世界会議終了後も E S D の取組が継続して実施されるように、ユネスコスクールの活動を支援していく必要がある。

全県で E S D 活動が実践されるように、ユネスコスクール加盟校以外にも広く E S D の理念等の普及・啓発を行っていく必要がある。

今後の方向性

短期的に取り組むこと

- ・「ユネスコスクール交流会」を開催し、県内のユネスコスクールの児童生徒や、教員同士の交流を深めたり、県外ユネスコスクールへの児童生徒の派遣を行ったたりし、各学校の E S D 活動の一層の促進及び質の向上を図る。また、活動事例集を作成・配布し、E S D の取組についてユネスコスクール加盟校以外にも広く普及・啓発を図る。
- ・先進的な E S D 活動を行っている大学や N P O などからユネスコスクールに講師を派遣し、E S D 活動の充実を図る。
- ・大学、N P O、公民館などの団体、機関との連携によりユネスコスクールの活動を支援する「ユネスコスクール支援会議」を設置する。

長期的に取り組むこと

- ・「ユネスコスクール交流会」を継続して実施するとともに、中部 E S D 拠点(R C E 中部：大学、企業、行政、N G O / N P O などによる協議会)と、県教育委員会・県内ユネスコスクールが連携をすることで、持続可能な社会づくりを担うグローバルな人材を育成する。

(担当課室：生涯学習課、高等学校教育課、義務教育課)

ゴミの分別の徹底とそれに伴う作業や物品の改善（通年、全生徒・全職員）、地域の廃品回収への協力（毎月第三土曜日、吹奏楽部生徒を中心とした生徒・職員）、生徒会主導によるペットボトルキャップ回収運動（通年、全生徒・全職員）

【愛知みずほ大学瑞穂高等学校】

1年総合学習での「新聞切り取りまとめ学習」の実施

【桜花学園高等学校】

高等学校ESDコンソーシアムへの参加（平成23年度～）、国際理解、国際支援、地域貢献、地域連携の取組を実施

【金城学院中学校・高等学校】

ユネスコスクール加盟校として、「名古屋空襲70回忌」を実施し、平和について学習。生徒ユネスコ委員会を発足。環境省「Fun to share」に参加し、環境を大切にするエコマインドを持った生徒を育成

【東邦高等学校】

平成26年11月にユネスコスクールとして認定。経済活動と貧困をテーマに、フィリピン国際理解研修やフェアトレード活動、災害支援活動等を実施。ユネスコスクール全国大会でのポスター発表及びESDユネスコ世界会議あいち・なごやでのポスターセッションに参加。

【名古屋国際中学校・高等学校】

SGHインドネシア研修（普通科国際クラス1年）、SGHアメリカ研修（普通科国際クラス1～3年）、ESDユネスコ世界会議併催イベントポスター作成

【名城大学附属高等学校】

林間学校研修の一環として学校創立当時の卒業生が植林した学校林を見学し、命の大切さ、環境保全について考える機会としている。インターアクトクラブの活動の一環として、発展途上国の現状調査・研究を行い、募金活動及び物品回収等の活動を実施。ネパール支援物資（文具等）の呼びかけ、地球温暖化及びエコに関する調査研究報告、花いっぱい活動の実施

【愛知啓成高等学校】

普通科に、ESDに取り組む探求コースとして、環境問題と向き合う「自然探究」、地域活性化を試みる「地域探究」、国際理解教育を柱に据えた「国際探究」を設置しESDの授業を展開。学校と地域が一丸となりエコキャップ収集を実施

【愛知黎明高等学校】

中部大学と連携したESD活動。総合的な学習の時間にESDに取り組む講座を開設。課外活動としてESD部を設置。絶滅危惧種「ウシモツゴ」を飼育

【中部大学第一高等学校】

「持続可能な街づくり」を学校全体のテーマとして、修学旅行先の沖縄、シンガポール、オーストラリアで、平和、環境エネルギー、経済、社会福祉等の分野において班別テーマ学習を行いながらESDを実践

【春日丘高等学校】

ユネスコスクールとして「多文化共生」をテーマにE S D学習を実施 【春日丘中学校】

東北支援ボランティア活動（年3回）、豊橋駅前での募金活動（毎月）、原爆の残り火の保存塔のある学校として生徒平和委員会活動 【桜丘高等学校】

全部活動が様々なボランティア活動に取り組む 【豊川高等学校】

平成26年度にユネスコスクールに加盟。毎月の委員会ボランティア活動「リアカー・パトロール」と夏季休業中の有志ボランティア活動「リアカー・ボランティア」を軸にE S Dを推進。地域の清掃活動を通してゴミのない社会の実現を考える。多数の生徒が外部団体主催のボランティア・イベントに参加 【豊橋中央高等学校】

（愛知県私学協会とりまとめ 平成27年6月）

効果指標の達成状況

指標：全国学力・学習状況調査で「学習意欲」に関する項目に肯定的に答えた児童生徒数の割合（小・中学校）

目標：全ての項目で全国平均を上回る。（毎年度）

【平成26年度の状況】

小学校では、すべての項目で目標を下回っている。

中学校では、「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上勉強していますか。」と「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」の項目で目標を達成した。

なお、「学校で好きな授業がありますか。」の項目は平成24年度から実施されていないが、類似の項目として、「国語の勉強は好きですか。」「算数(数学)の勉強は好きですか。」「英語の学習は好きですか。」の各項目について、中学校で「数学の勉強は好きですか。」の項目が全国平均を上回ったが、他の項目については、小・中学校とも全国平均を下回った。

学力・学習状況充実プランで示した方策が各小・中学校で実行できるよう、今後も支援を継続していく。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）の結果

小 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上勉強していますか。	本県	56.2%		54.0%	56.6%	56.0%	
	全国	58.2%		59.5%	63.2%	62.0%	
学校で好きな授業がありますか。	本県	93.3%					
	全国	94.0%					
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	本県	58.1%		59.7%	57.4%	58.9%	
	全国	60.1%		61.3%	59.4%	61.4%	
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	本県	79.8%		79.3%	79.6%	79.1%	
	全国	78.9%		79.1%	79.7%	79.4%	

中 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上勉強していますか。	本県	70.3%		70.8%	71.8%	71.2%	
	全国	66.2%		66.4%	68.6%	67.9%	
学校で好きな授業がありますか。	本県	80.7%					
	全国	80.3%					
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	本県	43.2%		47.3%	48.5%	51.3%	
	全国	45.8%		50.4%	52.2%	56.1%	
数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	本県	65.5%		67.1%	67.3%	68.4%	
	全国	64.9%		66.3%	66.9%	67.4%	

は、目標を達成している項目である。

23年度は東日本大震災の影響により「全国学力・学習状況調査」は見送りとなった。

【参考】

全国学力・学習状況調査（文部科学省）の結果

小 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
国語の勉強は好きですか。	本県	60.2%		61.5%	55.7%	57.3%	
	全国	62.1%		63.0%	57.9%	59.2%	
算数の勉強は好きですか。	本県	63.6%		63.6%	65.4%	64.3%	
	全国	63.8%		64.9%	66.2%	66.1%	
英語の学習は好きですか。	本県				74.6%		
	全国				76.2%		

中 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
国語の勉強は好きですか。	本県	56.8%		56.6%	55.4%	56.1%	
	全国	57.2%		58.6%	57.7%	58.2%	
数学の勉強は好きですか。	本県	53.1%		51.4%	55.9%	57.1%	
	全国	53.3%		52.1%	55.5%	56.6%	
英語の学習は好きですか。	本県				50.9%		
	全国				53.0%		

指標：高大連携を実施している高等学校の割合

目標：50%（平成27年度）

【平成26年度の状況】

前年度に引き続き目標を達成した。

今後も、「高大連携マッチングサイト」を活用しつつ、キャリア教育や理数教育などさまざまな場面で、大学等の専門的な学びを通じた学習意欲の向上に取り組んでいく。

本県独自の調査結果

年 度	21年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
実施率	19.2%	42.7%		74.8%	76.2%	

は、目標を達成している項目である。

